

令和5年度 感染症知識普及啓発事業

業種別 感染症対策研修

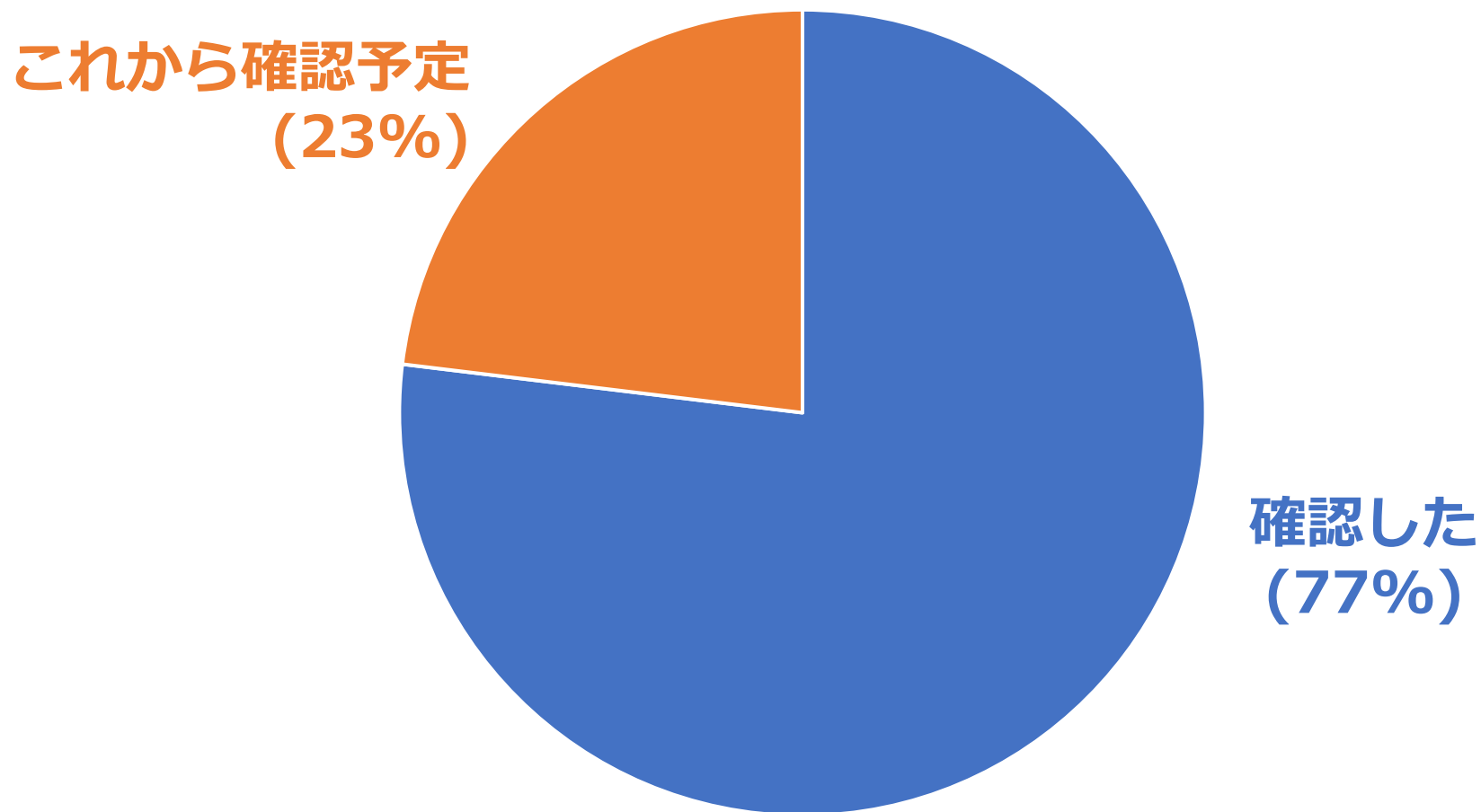
医療機関（病院）向け 実践編

2024年2月14日

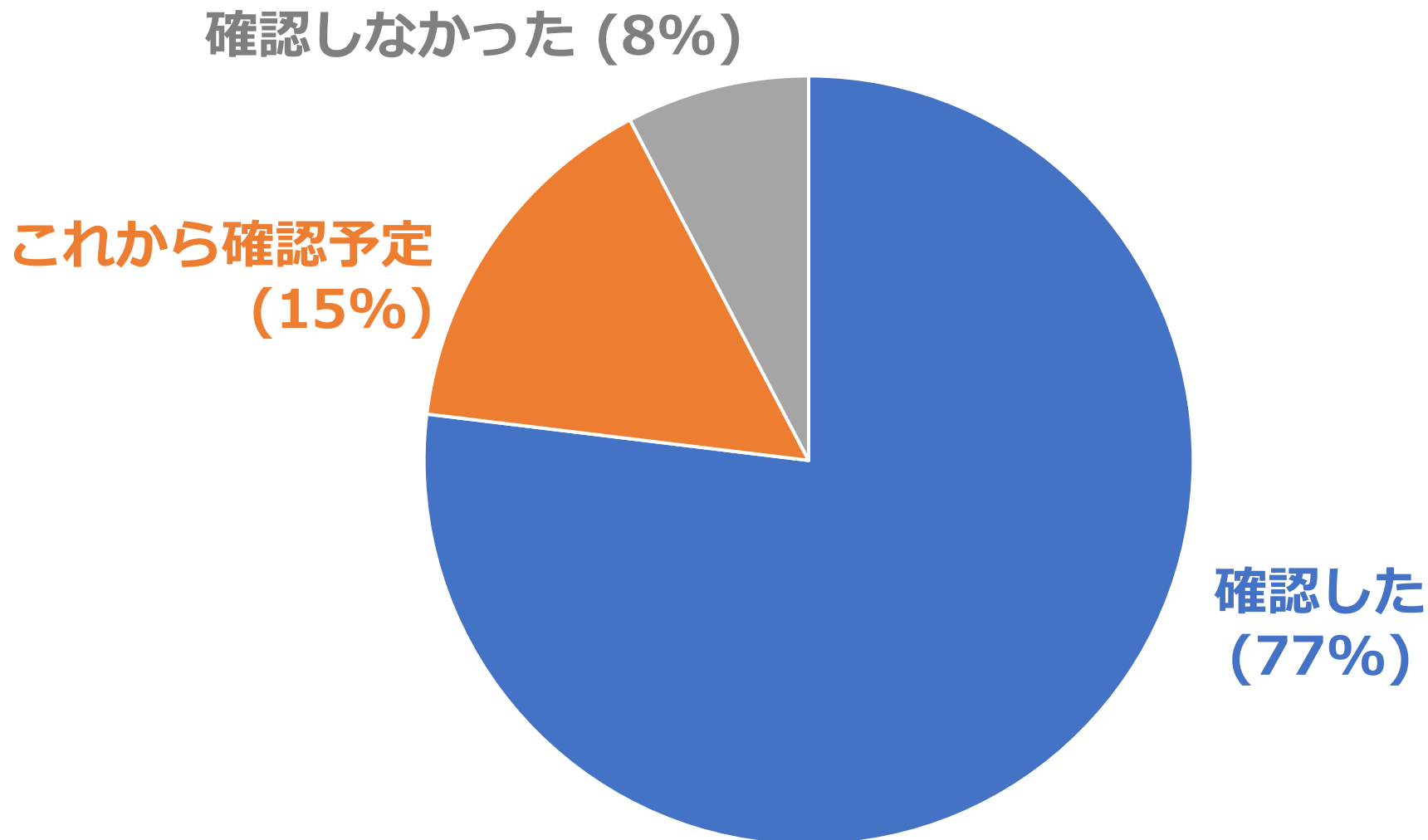
山梨大学医学部感染症学講座

鈴木哲也

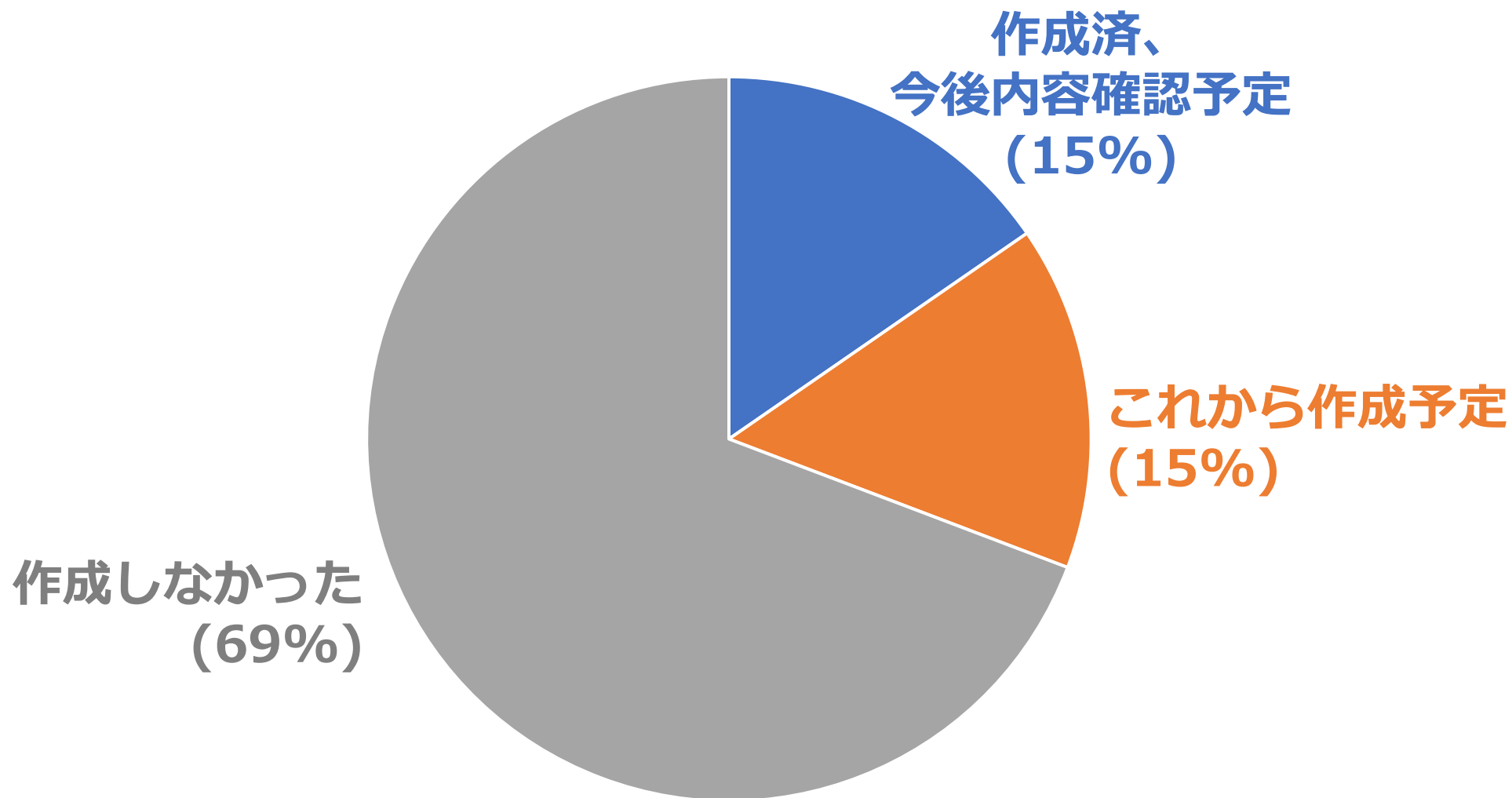
COVID-19



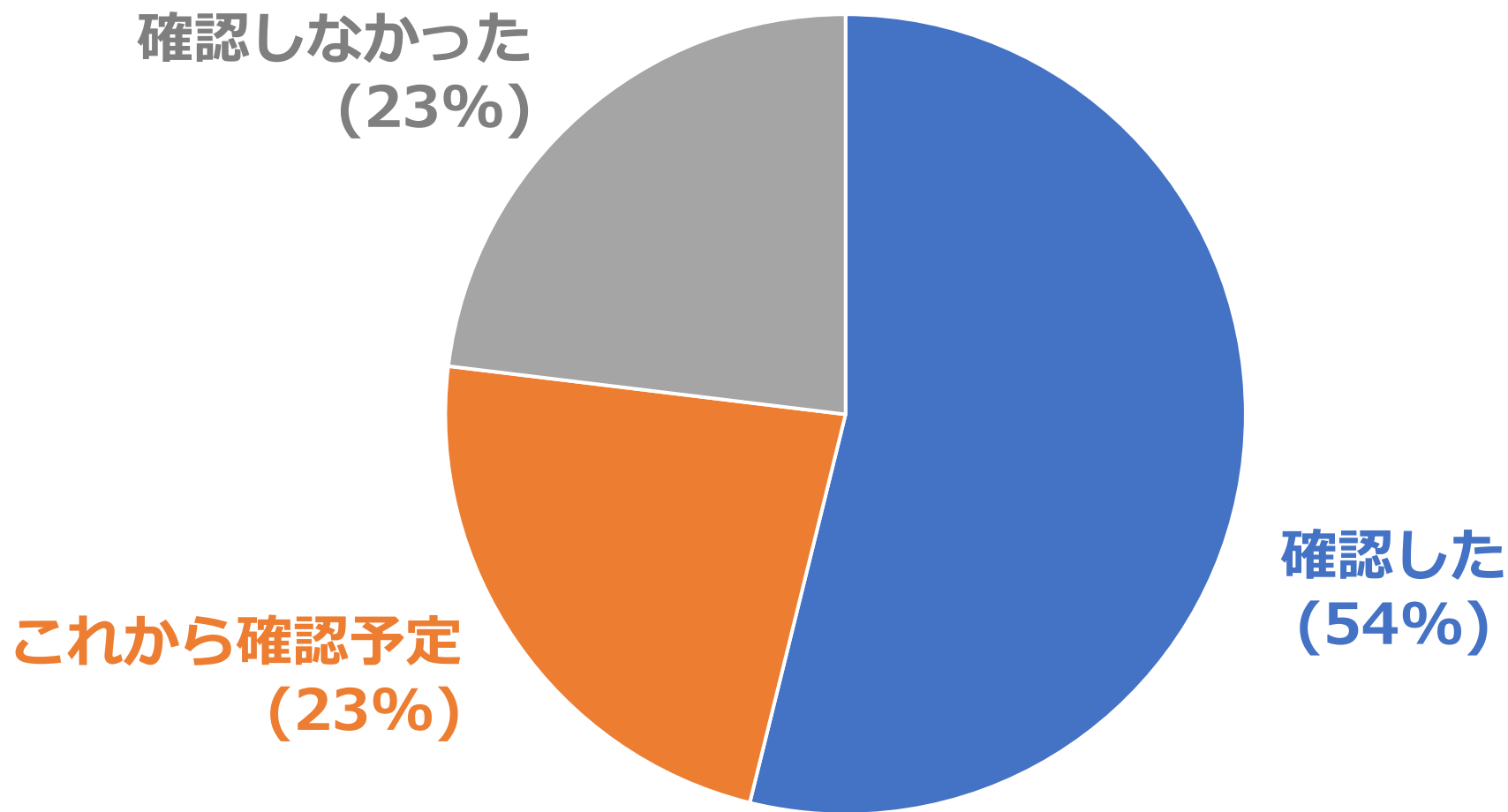
インフルエンザ



SFTS



結核



その他のコメント（一部抜粋、要約）

- 系列病院との感染対策定例会を月2回開催しており、情報収集などを図っている。
- 建物が古く、換気環境に課題が残る。
- コロナの5類移行後、一般社会と医療施設の対策のギャップに苦戦した。
- フェーズの修正、手指消毒剤の個人携帯 などを実施
- 外部の認定看護師からのアドバイスを受けた。
- 院内で勉強会を予定している。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (“人食いバクテリア”)

“人食いバクテリア”

- **A群β溶血性レンサ球菌**（≡*Streptococcus pyogenes*）の感染により、急速に進行する、致命率の高い感染症のこと（と思われる）
- 壊死性筋膜炎（壊死性軟部組織感染症）の文脈で用いられることが多い（若いのに四肢の切断を余儀なくされたが、なんとか命は助かった…）
- **A群β溶血性レンサ球菌**（≡*Streptococcus pyogenes*）は、他にもさまざまな病気を引き起こす（例：溶連菌性咽頭炎）

A群β溶血性レンサ球菌の感染症

- 体表の感染症（軽症）

- ✓ **咽頭炎（5類、小児科定点）**

- ✓ 猩紅熱

- ✓ 伝染性膿痂疹（とびひ）

- **侵襲性の感染症**

- ✓ 菌血症

- ✓ 産褥熱

- ✓ 蜂窩織炎

- ✓ 壊死性筋膜炎

- ✓ トキシックショック症候群

- 合併症、後遺症

- ✓ 急性リウマチ熱

- ✓ リウマチ性心疾患

- （特に僧帽弁狭窄症が有名）

- ✓ 急性糸球体腎炎

5類、全数（ただし基準を満たすもののみ）

- 以下のすべてを満たすもの

ア 臨床症状

(ア) ショック症状

(イ) 以下の症状のうち、2つ以上

肝不全、腎不全、ARDS、DIC、軟部組織炎（壊死性筋膜炎を含む）、
全身性紅斑性発疹、痙攣・意識消失などの中枢神経症状

イ 病原体診断

血液、髄液、胸水、腹水、生検組織、手術創、壊死軟部組織 からの検出

（1）定義

“**β溶血を示すレンサ球菌**を原因とし、突発的に発症して急激に進行する敗血症性ショック病態である”

<β溶血を示すレンサ球菌の例>

- *Streptococcus pyogenes*（A群）（≡ “人食いバクテリア”）
- *Streptococcus agalactiae*（B群）
- *Streptococcus dysgalactiae*（C、G群など）

- 鼻、のど、皮膚 に症状を起こさずに付着している (≒常在菌)
- 飛沫や直接的な接触により、伝播していく

普段の生活の中での感染対策：手指衛生、咳エチケット、マスク など

劇症型A群β溶連菌感染症の患者における医療機関での感染対策

標準予防策＋有効な抗菌薬開始から24時間までは飛沫・接触感染対策

日本感染症学会、感染症クイック・リファレンス 侵襲性A群レンサ球菌感染症
<https://www.kansensho.or.jp/ref/d28.html> 2024年2月2日閲覧

災害ボランティア参加時の感染対策

1. 被災地への感染症の「持ち込み」を防ぐ

- 開始前（普段からの）の体調管理
- ワクチン接種歴の確認（麻疹、風疹、おたふく、水痘 etc)

2. 被災地で自身が感染症に「罹患」することを防ぐ

- 事前準備（ワクチン接種、必要物品）
- 現地作業中の注意

- 呼吸器感染症（インフルエンザ、COVID-19を含む）

【対策】

- サージカルマスク着用（十分な枚数を持参する）
- 手指衛生（アルコール性手指消毒剤を持参する）
- ワクチン接種（インフルエンザ、COVID-19）

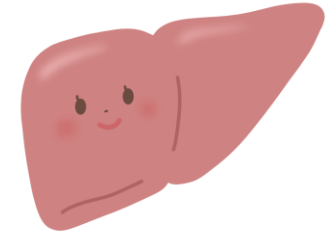
- 感染性胃腸炎（ノロウイルスなどを含む）

【対策】

- 手指衛生（本来は、流水と石けんにより手洗いも）
- 環境整備（次亜塩素酸製剤の使用も考慮）

- A型肝炎

- 経口感染（糞口感染）
- 肝炎の症状（発熱、倦怠感、食思不振、嘔気、黄疸 etc）
- 潜伏期間が数週間



- ワクチンにより予防が可能
- 国産ワクチンだと最短2週間あけて最低2回の接種が必要



野外作業（がれき撤去など）に伴う感染症

- 創傷関連の皮膚軟部組織感染症
- **破傷風**
- **レジオネラ症（粉塵吸入による）**
- ダニ媒介感染症（春以降。日本紅斑熱、ツツガムシ病など）

野外作業（がれき撤去など）に伴う感染症

【対策】

- 長袖、長ズボン、軍手などを着用
- **破傷風ワクチンの追加接種（後述）**
- **N95（相当の性能の）マスク（後述）**
- 虫除けスプレー（DEET or イカリジン配合の高濃度のもの）

- 1967年（今年57歳）以降に生まれた場合、幼少期の接種あり
- 最終接種から5～10年経過すると、効果が薄れてくる
- 基礎接種済の場合、1回の追加接種（ブースター）で十分
- ボランティア参加前に破傷風ワクチンの追加接種を検討する

レジオネラ症

- *Legionella pneumophila* による細菌性の呼吸器感染症
- 自然界（河川、湖、土壌など）に広く生息している
- 菌を含むエアロゾルの吸入によって感染する

⇒ がれきや汚泥の撤去時の感染に注意が必要

- 防塵マスク（N95マスク相当の性能が望ましい）を使用